

第2回ワークショップを開催

岩間地区では、防災緑地の計画検討に際して、地域の方々の意見やアイデアを取り入れ、親しまれる防災緑地とするために、全4回の岩間地区防災緑地ワークショップを開催しています。

第1回ワークショップでは、防災緑地の実寸大模型を見学した

あと、「こんな緑地がいいね」をテーマに、緑地で何をしたいか、何が必要かなどについて、自由な意見を出し合いました。

第2回ワークショップでは、「防災緑地のイメージを形にしよう」をテーマに、参加者13名で活発な話し合いを行いました。

ワークショップのプログラム

- ◆第1回ワークショップ
こんな緑地がいいね
- ◆第2回ワークショップ
防災緑地のイメージを形にしよう
- ◆第3回ワークショップ
コンセプト・プランを整理しよう
- ◆第4回ワークショップ
防災緑地の利活用と管理を考えよう

先生方の講話を考えるヒントに

緑豊かな芸術公園として

いわき市植田町出身の北郷先生と元倉先生（ともに東京芸術大学教授）からは、地理からみるポテンシャルを前提に、緑豊かな芸術公園としての価値を創造していくことの可能性をお話していただきました。

地理からみるポテンシャルでは、いわき市に存在する美しい海岸や豊かな地形、古墳や化石、アケアマリンなどの観光施設などに加え、いわき市立美術館に代表されるように現代美術が有名であること、音楽においても著名な人材を輩出していることなどを示されました。こうした条件のなかで、弓なりの海岸や大きな砂浜

を持つ岩間地区は、周辺の小浜地区などを含めて観光資源としての可能性のあることが指摘されました。

芸術公園としての可能性については、アートが町を活性化することを前提に、内外のアーティストが集う国際的なビエンナーレ（美術展覧会）などを例に挙げ、図面なども披露され、茨城県の美術の拠点である六角堂方面からの観光ルートに岩間地区も組み込むことができるなど、広い視点からお話していただきました。



北郷先生（右）
元倉先生（左）

木田先生



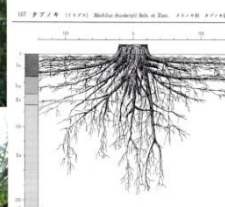
岩間地区の身近な樹木

樹木医の木田先生からは、防災緑地に植栽する樹種の参考として、岩間地区の身近な樹木についてお話ししていただきました。

樹木の成立が気候や立地の影響を受けることを前提に、岩間の防災緑地における植栽では、耐潮性や土壌条件を考慮し、さらに、環境や景観の再生・形成、身近な植物等の保全や活用、生物多様性の視点などを示されました。

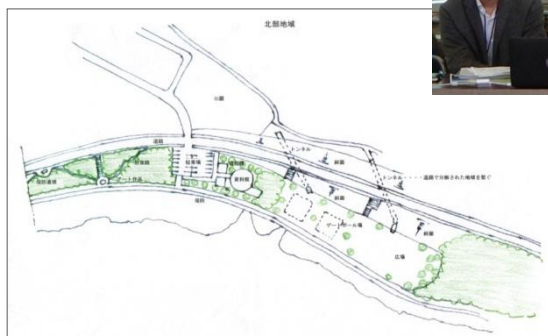
登場した植物は25種以上を数え、砂地に生育する草花から海岸の樹木、神社の社叢に生育する樹木などを根の張り方も含めて解説して下さいました。

タブノキ



根系図出典：樹木根系図説（岡住昇）

地中の根は防災緑地の表土を固める役割をします。



緑豊かな芸術公園の平面図が考えるヒントとして披露されました。



討議の果 テーマ：防災緑地のイメージを形にしよう

A班	コンセプト案（考え方、思いなど）	利活用イメージ	ゾーニングなど	管理者	植栽樹種
	・地域を守る。 ・住民が誇れる緑地にする。 ・単なる観光地ではなく、地元住民が地域に戻れるような緑地にしたい。	・お祭り。御神輿ルート。 ・みんなが集まる（毎年バーベキューをしていた）。	岩間地区と小浜地区を一体として考えたい。	・慰霊塔（祭）は地元住民とNPO。 ・ステージは企業協賛とNPO。	クロマツ エノキ 常緑樹
	・被災経験を後世にきちんと伝えたい（メモリアル）。 ・被災者の慰霊も考えたい。 ・被災を伝える（タイムカプセルだけではなく）。 ・地元の人の意見をきちんと取り入れるべき。 ・住民の状況を考えるとメモリアル事業はまだ早いのか。	・慰霊棟を建て、慰霊祭を行う（毎年3月。被災後に慰霊祭を実施実績）。 ・ステージを設置したい（特設ステージ：被災後に能舞台や音楽演奏を実施実績）。			
	・子供たちが集える場所にしたい。 ・遊び場のある緑地にしたい。 ・子供たちを砂浜で遊ばせたい（貝採りなど）。 ・海が見える緑地をつくる。	・児童生徒の学習会（被災後1年目に実施実績）。			
	・県道239号の高台からの眺望を残したい。 ・岩間地区と小浜地区を一体として考えたい。	・眺望点として県道の計画と現道利用を考えたい。 ・錦〜小浜のウォークラリー（被災後2年目に実施実績）。			

B班	コンセプト案（考え方、思いなど）	利活用イメージ	ゾーニングなど	管理者	植栽樹種
	・近隣に住む人を考えるのも大切だが、観光客の方のためのものとして考えたい。 ・近隣のためよりも観光客の集客を。	・皆が集える場所をつくれば元の住民が戻ってくる（足を運ぶようになるのでは…）。 ・他地区と結ぶイベント会場があってもいい。 ・鮫川と繋がるサイクリングロードがほしい。 ・砂浜における散歩コース。 ・基本的には車で訪れる人が多い。 ・浜辺における若者の花火に迷惑している。あまり浜辺の活用を積極的にさせたくない（駐車場のあり方が課題）。	・平場を活用すべき。運動設備（施設）は近くにあるので不要で、イベント用の広場として活用したい。 ・小浜と連携した遊歩道、サイクリングロードを整備してほしい。 ・サイクリングが魅力となるスポットにしたい（いわきの方を出発点として、休憩・展望エリア等）。	・駐車場の管理は誰か。 ・海岸、浜辺への一般車両の進入はさせたくない。 ・以前はサーファーのための駐車場があった（自主的なゴミ拾いもあった）。 ・以前は他の組合の方が分割してゴミ拾い等をしていた（サーファーのひとたちが）。 ・トイレやシャワー等の設備が増えたと、住民減少の折から管理が大変。	—
	・後世に記憶を伝えていきたい。 ・被災の風化防止と防災意識の向上。 ・メモリアル公園がほしい（観光メインではなく）。 ・子どもたちのトラウマを考えると「物」を残すことが本当に良いのか迷う。	・震災の記念となるものがほしい。 ・先祖代々の安全に対する「言葉」を残したい。 ・モニュメントを設置したい。 ・NPO主体で子どもたちと植樹イベントを行えば土地への愛着もわく。 ・バーベキューの設備や子ども用の遊具は必要ない（管理が大変、記念公園にそぐわない）。 ・県道からのロケーションを生かした防災緑地にしたい。		・神輿の海へ降りる経路は階段よりもスロープが良い（既存の階段付近に）。	
	・住民が減り、お祭り参加者も減少。それでも伝統的なものは残したい。			・神輿のスロープは、手前で一般車両の規制を行う。	
				・住民の懸念は管理体制。人口減少で困難。 ・管理の主体がどこにあるのか明確に。 ・行政と一体となった管理体制。 ・管理者と地元と一緒に作業しては。	

C班	コンセプト案（考え方、思いなど）	利活用イメージ	ゾーニングなど	管理者	植栽樹種
	・復興公園としてのモニュメント（防潮堤、タイムカプセル）の設置場所を確保する。 ・地域のために。 ・防災機能を重視する。 ・後世に残すために。 ・人を集めるための運動公園（テニス等）。	・道路へ避難するための階段を設置する。 ・震災資料館を設置したい。 ・階段等による海岸への接近性を確保する（お祭り）。 ・震災後のお祭りの復活は難しい。 ・子どもが育つ環境を確保したい。 ・避難訓練を実施する。 ・児童生徒の遠足に利用する。 ・スポーツ大会を開催する。 ・テニスコート、運動場も良い。 ・公園全体を歩ける遊歩道を歩く。 ・高台の見晴らし台がほしい。 ・多目的ホール（音楽、ギャラリー、会議会場）を設置したい。 ・カフェ・レストランの設置。 ・農業高校と連携したイベントを開催したい。	・高い場所にモニュメントを設置（見上げる）。 ・お祭りのための広いスペース確保。 ・子どもたちの花壇の設置。 ・子ども用の遊戯施設の設置。 ・斜面にも散策路がほしい。 ・3つのゾーン設定 憩いのゾーン スポーツのゾーン 防災のゾーン	・岩間地区だけでは管理が難しい。 ・岩間町での維持管理は無理なので、指定管理者制度を導入すべき。 ・維持管理は行政にお願いしたい。 ・地元とはどこまでの範囲か。 ・維持管理は誰？	—



A～C班に共通していたコンセプト案は、被災経験を後世に伝える復興公園やメモリアル公園としての整備でした。観光客など人の集まる公園の役割も重要視されました。



人が集り、地域が活性化し、安全が確保されることにより、被災により岩間地区を離れた住民が戻ってくれば、という参加者の願いが示されました。

